抜き打ち調査実施報告書

法人名 施設名	社会福祉法人生活クラブ風の村 特養ホーム八街
実施日 時　間	開始　　2019年　7月26日（金）　0時05分 終了　　2019年　7月26日（金）　9時00分
評価者名	是枝祥子　本間郁子　（2名）

※結果（運営基準の順守）

抜き打ち調査の職員の対応	0：05 にインターフォンを押すと宿直職員が対応した。抜き打ち調査実施書を手渡し、打ち合わせの後、1時00分から調査を開始した。

夜勤者数	11 ユニット（＋ショートステイ1ユニット、1ユニット工事のため休止中） 定員９７名で夜勤者６名　（ショートステイ１名の夜勤者含む）（運営基準は６名。重要事項説明書通り）
拘束の有無 コールの位置	全居室（自室から鍵をかけている人以外）を確認した結果、拘束は無し。 コールの位置はすべて適切。コールが見えない、ベッドから離れているところはすべて職員に確認し適切と判断した。
プライバシーの確保	全居室ドアが閉まっており、プライバシーが守られ、排泄介助も適切であった。
不適切な対応	無し。 夜間、ほとんどの方が安心して休まれている様子を伺うことができた。夜間1時間置きに起きて廊下を歩く人への対応、状態把握ができていた。不適切な状況は見受けられなかった。

【特記】

深夜の呼び鈴に冷静に対応しており、それぞれ夜勤の職員においても突然の調査に冷静に、いつもと変わりない行動をしていた。抜き打ち調査が周知されている。抜き打ち調査の同行者に調査の内容等説明し調査を開始した。

夜勤者１人に「生活クラブ風の村」の理念、基本方針を尋ねると明確に答えることができた。

現在、1 ユニット（ショート）は増築工事のため休止中で、いつもとは違う状況、11 ユニット（全室個室）で 6 人配置しており、コンプライアンスは守られていた。（ショートユニットを含む）職員の仮眠、休憩は取られており、調査の中でも 1 人が仮眠中の時があった。夜勤職員は入居者に対して、いつも通り丁寧に対応していた。拘束ゼロ、それぞれの居室は臭いもなく、コールは適切な場所に置かれ不適切ケアは一切見る・感じることはなかった。

夜間に 1 時間置きに起きて廊下などを歩く方がいて、その人のために廊下の明かりがすべてついていた。配慮がある対応だと思う。朝早くにリビングにいらしたその方に「お早いですね。良く眠れましたか？」と聞くと「良く眠れた。」と頷かれた。本人がそう思うことは大切なこと。

居室前に感染症対応キットが置かれていたので、職員に尋ねると、夕方嘔吐した人がいて、感染症を疑って対応していたとのこと。結果的に感染症ではなかったが、まん延を防止する対応が適切にできていた。

コールの位置が見えない、届かないところに置かれているところはすべて確認した。認知症でコールを押すことができない。枕元におかれているものを引いたり、必要ではなく押したりする、ターミナル期にあるなど、説明が適切であった。コールを置かない理由は家族の同意が得られているか、施設サービス計画書においても確認できるようにすることなどを伝えた。

本町の居住環境は現在、工事中のため通常の日常生活ではないこともあり、ユニットによって季節感のあるところとないところがあった。
また、トイレの排泄用品の置き方においても、プライバシーに配慮した置き方をしているところとそうではないところの差があった。

新町は、居住環境が良くなってきており、玄関や食卓テーブルにはそれぞれの野の花などが活けられていた。リビングの畳の間の活用がなかなかできていなかったが、２ユニットが居心地の良い空間を作っていたことは評価できる。

本町の増築工事と浴室工事で２ユニットが１つのユニットで食事や日中を過ごしている状況で、入居者も職員も工事を乗り切るために工夫をしながら頑張っていた。

前回の抜き打ち調査では臭いはなかったが、今回、本町の一部で尿臭を感じるところがあった。新規入居者の対応や工事中で、２ユニット共同で設備を使うなど、少し混乱している状況はありつつも、きちんと整理整頓に気をつかっており、不便さを工夫で乗り切っていた。

夜勤専門職員が 3 人いた。コール対応は静かに歩き、入居者が聞こえるように耳元で声をかけ対応していた。言葉は「です」「ます」をつけてゆっくり丁寧、部屋を出てくるときは「おやすみなさい。」「困ったらいつでも呼んでくださいね。」と安眠に繋がる声かけが心地よかった。

冷蔵庫は多くのユニットが清潔で整理整頓ができていた。ただ、一部、汚れもあった。

工事は 9 月までで、10 月から通常通り運営できる。浴室も大幅修繕され、個浴となり、快適で男女問わず対応できるようになり、効率化も図られた。

玄関の前、エレベター前の空間、廊下の壁面のグリーンなどおもてなしの感じが良い。窓から見える木々の爽快感に癒される。中庭が工事で緑が見えなくなるのが惜しいと感じる。入居者が自然を身近にいつも感じられることは人の優しさとは異なる心地よさがある。

若い夜勤の職員が「抜き打ちがあることは聞いていたが、今日が、そうなんですね。びっくりした。」「入ってはいけない部屋はありますか。」「どの部屋も大丈夫です。」「では見せていただきます。」「こんな遅い時間にご苦労様です。」とびっくりした様子だったが、ていねいに仕事していた。次のユニットに行く時に見かけたので、「夜勤は大変ですか。」と聞くと「初めはデイサービスにいたので、特養の仕事を覚えるのに時間がかかりました。今でも、これでいいのかなと思うこと多く、また入居者の方々から学ぶことがたくさんあります。ま

だ自信はありません。何か気づいたら言ってください。」と答えており、仕事に対して誠実で真面目な姿勢があった。
「仕事は大変ですが辞めないで頑張ってね。」というと「頑張ります。」と笑顔が返ってきた。

　朝の起床は入居者に合わせゆっくりの起床、先に起きてきた入居者にはお茶を入れくつろげるようにしていた。朝の忙しい時間に職員は起床や食事の準備などをしながらも、入居者へ声かけし居心地の良い雰囲気を作りだしていた。絶えず全体を見ながら行動している職員の配慮があって安全や快適さに繋がっていることが確認できた。

　入居者は日常生活を過ごしながら、工事の音や利用できる空間が狭くなるなど、配慮しなければならないことが多々ある中で、職員は入居者の生活や安全を優先していることが伝わってきた。どのような状況にあっても常に工夫しながらケアを積み重ねていることを評価したい。

　前回よりも全体的にレベルアップしていた。